

## あいさつ

山口県草地研究会 会長 西嶋 芳郎

平素より当研究会の運営につきましてご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
畜産を取り巻く情勢は、米国でのBSE問題、日本を含むアジア各国に猛威をふるう鳥インフルエンザ等の影響により、大変厳しいものになっております。

草地飼料関係では、平成14年12月に発表された米政策改革大綱により、米政策が大きく変わる中、水田機能を維持したまま、米の生産調整と飼料の自給率向上を図ることができる稲発酵粗飼料(飼料イネ)の普及定着化が進んできています。

山口県では3年ぶりに奨励品種の見直しを行い、主な変更点としては、飼料イネ「ホシアオバ、クサノホシ」及びイタリアンライグラス「さちあおば」が新たに追加される予定になっております。

このように、草地飼料関係を取り巻く環境が変化する中、草地研究会としても会員同士の連携を密にし、自給飼料生産拡大を図るよう今後も努力して行く所存でございます。

平成16年3月